資料 2-3

令和８年度（2026 年度）春季特別展

１．名　称　　令和８年度（2026 年度）春季特別展
「早田家文書展－江戸時代の吹田村が見えてくる－」

２．会　期　　令和８年４月２５日（土）～５月３１日（日）（予定）
休館日　月曜日と祝日の翌日。
ただし、５月４日（月・祝）～６日（水・祝）は開館

３．会　場　　吹田市立博物館　３階　特別展示室・ロビー

４．展示主旨

江戸時代に吹田村旗本竹中領の庄屋を務めた早田家には、江戸時代前期からの多くの古文書が残されています。これらは旧吹田村に関する貴重な史料群です。

早田家家伝によると、早田家は吹田氏の与力として加勢し、吹田氏滅亡後、武士をやめ、農業に従事したと伝えられています。江戸時代には吹田村で酒造業や過書舟による運送業などで成長し、天明８年（1788）ごろから吹田村竹中領の庄屋を務めました。

早田家に伝わる、村政に関わる定書や検地帳、酒造、過書舟等産業に関わる文書、家政に関わる文書などは、陸上水上交通の要として一部町場的性格も有する吹田村を考える上で貴重な資料です。吹田村は、農村でありながら、過書舟の運航や吹田の渡しで交通の要衝であったため町場的な性質も持っていました。早田家の家業はそうした吹田村の性質を体現しているといえるでしょう。早田家の商業活動や庄屋としての役務等を古文書や絵画資料・民俗資料で紹介します。

５．展示資料

竹中重職定書、吹田村検地帳写、万之算用覚、吹田村絵図、三方会所鍵、川絵図、
過書舟株名代付替証文、過書舟鑑札、酒造の桶、稲荷小祠の灯籠・提灯・旗、絵画（掛幅）等

６．関連イベント（予定）

開会式、講演会３回、歴史講座１回、ギャラリートーク１回、展示解説２回、
史跡見学（すいた歴史散歩）１回、クイズラリー６回

７．予算

６３万円（前年度事業費として令和７年度予算１２４万円）

令和８年度（2026 年度）さわる月間

１．会　期　　令和８年（2026 年）６月１３日(土)～７月５日(日)
　　休館日　月曜日

２．会　場　　吹田市立博物館　３階　特別展示室

３．開催趣旨
　来館者自らが主体的に能動的に展示資料に触れることは、資料について作り手や使い手などに自分なりの思いを馳せ､展示物やその背景にある地域の歴史や文化を大切に思う気持ちを育む機会となる。「さわる」という行為、さらに視覚、聴覚、嗅覚など他の感覚によって資料に向き合うことで、モノに対する理解を深め、より高度な知的欲求を促すことができるような博物館体験の場を提供するものである。
　また、この期間に集中的に展示物に触れることに関連するイベントを開催することで多くの方々にご来館いただき、展示物に触れ学ぶことの意義を共に考える機会とする。

４．関連イベント（予定）
　講演会　　１回
　ボランティアによる体験講座　　１回
　　福祉ボランティアの方による体験講座「わくわく体験」
　展示案内・展示解説　　８回
　　福祉ボランティアの方による展示案内

５．予算
　１９万円

令和８年度（2026 年度）夏季展示

１．名　称　「吹田の自然と環境」（仮題）

２．会　期　　令和８年（2026 年）７月１８日(土)～８月２３日(日)
　　休 館 日　月曜日

３．会　場　　吹田市立博物館　３階　特別展示室・ロビー

４．展示主旨
　当館では、平成２１年度（2009 年度）から学校の夏休み期間に開催する夏季展示は、主たるターゲットを子どもにおき、「吹田市の自然と環境」を主題に開催してきました。令和８年度（2026 年度）においても例年どおり同主題で実施します。
　この展示は、市民との協働事業という視点にたち、博物館職員が市民に適宜支援、助言を行いながら展示の企画、準備、運営をおこないます。吹田に残された身近な自然に目を向け、市の魅力として発信し、展示内容に関連した講演会、ワークショップ、工作教室、展示解説などのイベントも盛り込みながら、吹田の自然、環境を考える機会とします。

５．展示予定資料
　吹田市域でみられる動植物資料（剥製・写真・レプリカ等）

６．関連事業（予定）
　講演会、ワークショップ、体験講座、バックヤードツアー

７．予算
　１９０万円

令和８年度（2026 年度）秋季特別展

１ 名　称　「須恵器展」（仮題）

２ 会　期　　令和８年（2026 年）１０月１７日（土）～11 月２３日（月・祝）予定

休館日　１１月２３日以外の月曜日、１１月４日（水）

３ 会　場　　吹田市立博物館　３階　特別展示室・ロビー

４．展示主旨

約１６００年前、日本列島において本格的な「窯」を使い焼いた器を須恵器とよびます。この、須恵器の生産は、縄文土器や弥生土器の生産とは異なる、朝鮮半島から伝来した当時の最先端技術でした。大阪府下では、陶邑（堺市・和泉市）、千里古窯跡群（桜井谷窯跡群（豊中市）、吹田須恵器窯跡群）が主な生産地として須恵器生産初期（４世紀末）から稼働していました。

本展覧会では、千里窯跡群のなかで最も古く、窯業技術が導入された初期の窯である吹田須恵器窯跡 NO.32 を紹介するとともに、吹田地域における古代窯業の変遷を追います。

５．主な展示資料

吹田須恵器窯跡３２号、５４号出土資料　ほか

６．関連イベント

講演会、歴史講座、展示解説、ワークショップ

７．予算

１９０万円

令和８年度（2026 年度）特別企画

１．名　称　　「むかしのくらしと学校」

２．期　間　　令和８年（2026年）１２月８日（火）～令和９年（2027年）４月４日（日）（予定）
休館日　祝日を除く月曜と祝日の翌日、１２月２９日～１月３日

３．会　場　　吹田市立博物館　３階　特別展示室・ロビー

４．展示主旨

主たる観覧対象者を「市の様子のうつりかわり」を学習する小学校３年生とし、明治・大正・昭和初期にかけての衣食住の生活用具及び子どもの遊びと学習用具・学校に焦点を当て、その移り変わりとそれに伴い変化する生活や市の様子についての理解を深める。

展示は実物資料、写真パネルから構成し、子どもの探求心、学習意欲を高めるため体験学習コーナーを設ける。また、実際に昔のあかりについて明るさを体感してもらうため、講座室を暗室にして「あかりのうつりかわり」体験を実施する。

５．主な展示予定資料

(1) 茶の間（食事風景）・土間（炊事場再現）ステージ
(2) 衣生活（着る・洗濯・裁縫）
(3) 食生活（炊事道具食・食器類）
(4) 住生活（あかりの道具・暖房道具）
(5) 昔の学校（教科書　雑誌　鬼瓦・給食）
(6) 市内の様子や学校のうつりかわり
(7) 体験コーナー（１２種類）

６．関連事業

体験講座　７回

７．予算

４４万円

令和９年度（2027 年度）春季特別展

１．名　称　　「大工道具展－切る・削る・組む－」（仮題）

２．会　期　　令和９年（2027 年）４月２４日（土）～５月３０日（日）（予定）
　　休館日　月曜日と祝日の翌日

３．会　場　　吹田市立博物館 特別展示室

４．趣旨
　江戸時代、吹田には大工の職能集団である「岸部組」があり、地域の寺社や民家、御所の造営等を担う重要な役割を担っていました。
　また、稲作をはじめ農業が盛んであった吹田では、多様な木製農具を用い、増産と作業効率化を図っていました。その他にも酒造業で使われる木製桶なども作られており、様々な木材加工業が営まれていたことが分かっています。
　木材の加工では作業に応じて様々な道具が使われます。中世の絵巻物などにも大工道具は描かれていますが、現在の道具とは内容に違いが見られます。その後、江戸時代の資料には現在の道具と似たものが描かれるようになることから、直接のルーツは江戸時代ごろであると考えられます。
　展示では建築や樽製作で使われていた大工道具について紹介し、道具を通じて大工の仕事や仕事の中で見られる創意工夫について紹介します。

５．展示資料
　大工道具（カンナ、ノミ、ノコギリ、墨ツボ等）

６．関連イベント（予定）
　講演会２回、歴史講座１回、展示解説１回、クイズラリー等

７．予算
　５８万円